

公式記録

(社)兵庫県サッカー協会
兵庫県高体連サッカー部

平成23年度兵庫県高等学校総合体育大会サッカー競技 準決勝 【 159 】

主審
署名

梅谷 昇平

日時	2011年6月3日(金) 11:00 キックオフ				会場	アスパ五色 メイングラウンド					
天候	晴れ	風	弱風	ピッチ	(天然芝・人工芝・クレー)		状態	良好	試合形式	70分 / 延長 20分 / PK戦有	

審判員	辺見 康裕		会場主任	堀口 泰司		記録	岡本 進司 / 菅原 正裕		観衆	300人	
主審	梅谷 昇平		副審1	芝切 淳		副審2	鶴野 敬二郎		第4の審判員	吉本 忠義	

チーム名	報徳学園高校				kick off	2		1 前半	0	0 後半	1	0 延前	0	1 延後	2	PK戦	滝川第二高校			
選手番号					PK戦			PK戦			選手番号					PK戦				
先	O×				先	O×		先	O×		先	O×				先	O×			

交代 No.	シュート				選手名 (学年)	番号	位置	位置	番号	選手名 (学年)	シュート				交代 No.		
	延後	延前	後半	前半							前半	後半	延前	延後			
					渡辺 有紀也	3年	1	GK	GK	12	中村 正誠	2年					分
			1		真部 拓也	3年	13	DF	DF	④	平田 雄己	3年	1			1	分
	1*				小西 祐樹	3年	3	DF	DF	2	亀岡 淳平	3年	1	1		1*	分
					岡田 重信	3年	8	DF	DF	3	後藤 尚仁	3年		1			分
					村上 群真	3年	5	DF	DF	16	鈴木 陸	3年					分
					野尻 志遠	3年	7	MF	MF	11	恵 龍太郎	3年			1		分
46分					神山 拓夢	3年	15	MF	MF	9	槇島 隆介	3年	1	1			80分
46分					富士野 恭祐	3年	9	MF	MF	7	高畑 智也	2年	2	3		1	分
88分			1		松本 健太	2年	14	MF	MF	20	木下 稜介	2年	1				52分
80分					磯岡 優斗	3年	10	FW	FW	10	筒井 亮磨	3年	1				58分
			1	1*	高田 直人	2年	20	FW	FW	14	札幌 健太	3年		2*			70分
					錦 洋斗	2年	21	GK	GK	1	清水 貴大	3年					分
					巽 夕祐	3年	2	DF	FW	13	森田 雄姿	3年				1	分 14
9分					茨木 凌	3年	④	DF	MF	15	立花 卓也	3年					分 9
					山本 将太郎	3年	19	MF	FW	19	寺田 俊	3年					分
15分					竹中 偉吹	2年	16	MF	DF	24	佐々木 慎太郎	2年				1*	分 20
14分					大野 真之介	2年	17	MF	MF	25	山本 和也	2年					分
10分					吉田 聖貴	3年	18	FW	MF	6	下野 慎平	3年					分
					山岡 佑慈	2年	11	FW	DF	8	高見 航太	2年					分
					前田 恵汰	3年	6	MF	FW	22	馬場 航	2年					分 10

時間	警・退 No.	氏名	事由	合計	延後	延前	後半	前半	チーム合計	前半	後半	延前	延後	合計	時間	警・退 No.	氏名	事由	
分				5	1	0	3	1	シュート	7	8	1	5	21	41分	警	10	筒井 亮磨	ラフ
分				12	1	1	5	5	GK	1	2	0	0	3	分				
分				5	1	2	1	1	CK	2	5	0	1	8	分				
分				13	4	3	5	1	直接FK	5	4	1	3	13	分				
分				5	0	1	1	3	間接FK	0	0	0	0	0	分				
分				0	0	0	0	0	PK	0	0	0	0	0	分				

[警告事由] 反ス・ラフ・異議・繰返・遅延・距離・無入・無去 [退場事由] 不正・乱暴・つば・阻(手)・阻(他)・侮辱・警2

得点経過	時間	チーム	No.	得点者	スコア	[得点経過]	略号例: ドリブル~・ゴロのパス→・浮き球n・混戦×・ヘディングH・シュートS
	9分	報徳	20	高田	1-0	中央 ⑩ ~ S	
43分	滝川第二	14	札幌	1-1	中央 X ⑭ ~ S		
88分	報徳	3	小西	2-1	左 CK ⑦ n 中央 ⑤ n ③ HS		
90分	滝川第二	2	亀岡	2-2	右 FK ⑯ n 中央 ② ~ S		
90+3分	滝川第二	24	佐々木	2-3	中央 ⑬ S ポスト はね返り ④ S GK こぼれ 24 S		
分				-			
分				-			
分				-			
分				-			
分				-			

戦評者 所属【 伊丹北・小野 】 氏名【 吉田・笠原 】

絶好のコンディションの中、滝川第二・報徳ともに4-4-2のシステムでゲームが始まる。滝川第二は前線からプレッシャーを掛け、積極的にシュートを打ちペースを掴もうとする。報徳は、2トップヘンブルにボールを集めチャンスを伺うという展開であった。両チームともディフェンスの連携が悪い場面があり、前半9分滝川第二のディフェンスのミスをつき報徳がゴールを挙げる。後半に入り、滝川第二は⑭と⑯のポジションを入れ替え、反撃の糸口を掴もうとした。その采配が功を奏し、後半8分同点に追いついた。その後も滝川第二の分厚い攻勢が続いたが、報徳は粘り強く体を張ったディフェンスで凌いだ。延長に入り、一進一退の攻防が続いたが、報徳が延長後半8分CKからゴールを挙げた。そのまま終了するかと思われた延長後半10分、滝川第二がFKを得て、報徳のディフェンスの連携ミスをつき落ちてきて②亀岡がゴールを挙げた。その後すぐに逆転ゴールを挙げた。両チームとも最後まで粘り強く戦った準決勝にふさわしい白熱した好ゲームであった。

[備考]